

(案)

# 「安心して」「ゆとりをもって」産み、育てることのできるまちを目指して **いわきネウボラ（出産・子育て総合支援事業）**

**現状・課題**

○少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化により、地域で妊産婦やその家族を支える力が低下し、妊娠・出産・子育てに関する不安や負担が増加

加えて、本市では

○妊娠期～産前・産後の支援が手薄

○ネウボラの予防支援、個別支援を実施するにあたり、現在の保健師数では円滑な事務の執行に課題

**目標**

**妊産婦・親**

○出産、子育ての不安や悩みに寄り添い、孤立を防止

○安定した心身状態で出産、子育てできる環境の整備

**子ども**

○子どもの人権を守りながら、健やかな成長を支援

H29.7～

フィンランド語で「アドバイスの場所」という意味

**いわきネウボラの創設**

- ◇ 地区保健福祉センターをワンストップ拠点（ネウボラ）として
- ◇ 妊娠、出産から子育て期までの支援について
- ◇ 母子だけでなく、父親、家族も含めて
- ◇ 専門職（保健師等）によるアセスメントを基礎とし
- ◇ 地域の社会資源の開発・育成を念頭に、それらの社会資源と連動させ
- ◇ これまで以上に継続的かつ包括的に関わっていく

**仕組み**

<b>相談体制の整備</b> (拡)	<b>相談室の設置</b> (新)
7地区センに集約し、専門職による全数面接を実施	妊婦や子連れの方が安心して相談できる体制の確保
<b>支援プランの作成</b> (新)	<b>支援メニューの実施</b> (拡)
妊娠期、産前・産後期・子育て期の3期に分けて作成	新規・拡充含めて10事業以上を実施

**効果**

- ▶ 育児不安の解消
- ▶ 養育困難な家庭の早期発見・継続支援
- ▶ 支援を必要とする子どもへの早期支援
- ▶ 虐待防止
- ▶ 子どもの貧困対策

